

滋賀県文化審議会第19回会議 議事概要

1 日 時

平成30年3月23日（金）10:00～12:00

2 場 所

滋賀県庁北新館5-B会議室

3 出席者

委 員：中川委員（会長）、東委員、伊熊委員、川戸委員、立岡委員、田端委員、
殿村委員、富永委員、三田村委員、南委員（10名出席）

事務局：県民生活部福永部長、村田管理監、文化振興課田島課長、田村新生美術館
整備室長、小林参事、野瀬課長補佐ほか

4 議 題

- (1) 滋賀県文化審議会評価部会の審議内容について
- (2) 滋賀県文化審議会次世代育成部会の審議内容について
- (3) 文化プログラムの推進について
- (4) 新生美術館の整備の現況について
- (5) 平成30年度の主な取組について

5 議事録 以下のとおり

■ 福永部長あいさつ

■ 議題

	<p>■議題1 <u>滋賀県文化審議会評価部会の審議内容について</u></p> <p>■議題2 <u>滋賀県文化審議会次世代育成部会の審議内容について</u></p>
事務局	<p>事務局より「滋賀県文化審議会評価部会の審議内容について」、「滋賀県文化審議会次世代育成部会の審議内容について」説明</p>
会長	<p>ただいまの事務局からの2つの説明について、ご意見ご質問をお願いします。</p>
委員	<p>第13回文化審議会評価部会で生活文化の議論について申し上げました。滋賀県の生活文化はびわ湖ととても関係が深い。滋賀県とびわ湖はともに重要ですが、それらがうまくつながっていない。観光客は滋賀県と言えばびわ湖と聞くが、何を見ればいいのかわからないとおっしゃる。私自身もびわ湖の研究をしているため課題。外に向けてもっとアピールする必</p>

	<p>要があるのではないかと思います。</p> <p>第14回文化審議会評価部会の視察（湖北アール・ブリュット展、ユースシアター事業「美味しいメロディ改」）の2つに参加しました。どちらも一生懸命されていて良かったです。アール・ブリュットについては、障がいのある方がいるご家族のご要望を受けてイベントを始めて、それを町づくりにつなげているのがとても良いと思います。毎年やっているという継続性が市町のモデルになるのではないかと思います。ぜひ続けていただければと思います。劇は教育事業としては、頑張る子どもと温かく見守る家族という姿は微笑ましくて良いが、お客様を広げるという段階では、舞台のレベル・洗練度を高めないと継続するのは難しくなるのではと心配しました。</p>
委員	<p>評価部会の視察をして、滋賀の文化は分厚いと思いました。そのなかで、文化をY・T・T（Yesterday・Today・Tomorrow）と分けて考えていく必要があると思いました。Y=yesterdayは今まで積み上げてきた文化の集積、のこと。仏の美やアール・ブリュット等の積み上げのことです。この発信点が絶対に必要で、未来と混合してはいけないと思います。発信を続けないといけないが、プラスアルファで今の文化を作っていくかといけません。T=todayはツールとして2020年に向けての文化プログラム等を与えられている中で1つにまとめる機会をもらっているのではないのでしょうか。T=tomorrowで、印象的だったのはアートマネジメントセミナーです。今後も続けてほしいと思います。未来の滋賀の文化を作っていく指標にしてはどうかと考えます。</p>
委員	<p>次世代育成部会で紹介されたアートフェスティバルを見たが、たくさんの方が来られていました。ハンドメイドのブースがあり、たくさんの方が興味深そうに見ておられました。びわ湖ホールの声楽アンサンブルのクリスマスソングを歌って、みんなで歌う場面もムードがあって良かったと思います。親子で楽しむワークショップもたくさんの方がおられたので、もっと県民の方がどういうものに興味を持っているのかをリサーチして継続してほしいと思います。</p>
会長	<p>次世代育成部会の審議内容のもう一つのテーマ、若手芸術家等の育成支援の取り組みについてのご発言をお願いします。</p>
委員	<p>芸術家の育成について。県でも重要だと思います。私は美術の雑誌の編集に携わっていますが、アーティストと呼ばれる方達はそれだけで食べて</p>

	<p>いくのがどれだけ大変なのかということです。むやみにアーティストを作るのは問題だと思います。結局食べられない人が増えるだけ。全国でビエンナーレなどの芸術祭が行われているが、食べられないアーティストが渡り歩いて、凌いでいくということがあります。そういう芸術家が多すぎる。そいれではアートのレベルが下がってしまいます。そういう事業は海外からたくさんお客様も来られるので、日本のレベルが問われることとなります。芸術家を育成・支援するときに、芸術家像をもう少しハッキリさせた方が良いと思います。芸術家・アーティストはその仕事だけで食べていく人なのかどうか。私は、プロのアーティストのためだけでなく、食べていくことにつながらなくても、芸術に触れること、携わっていくことがあらゆる人の幸せにつながるのだと思います。芸術家の育成像のイメージをハッキリさせた方が良いのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>音楽の方は、しがぎん経済文化センターや平和堂財団が小さいときから練習をして、大学を出て、留学をしているような方達を応援してくださっています。音楽の場合、演奏会をするのも一人でするのは大変なのです。その支援をしがぎん経済文化センターと平和堂財団は行ってくれています。やはり演奏をしないとなかなか上手になっていかないものです。積み重ねでだんだん上達し、そこから伸びていきます。みんなの前で演奏したいというのが音楽の場合はある。そのための応援は必要だと思っています。そのおかげで音楽家が育っているのです。小さいときに芽がでなかった人も何度か演奏を重ねて、味が出てきて伸びてくる40代~50代の方もいらっしゃいます。やりたいという方には応援をし、そういう場を作ってもらいたいと思います。やりたいと言う人には頑張って応援していただきたいです。</p>
会長	<p>この次世代育成部会を作った趣旨からすると、今の2つの意見はこれからの課題となるべきことです。次のステップや戦略を考えなければいけないかもしれませんね。</p>
委員	<p>育成支援は、場所や機会の提供となっていますが、経済の関係では、これからの世代ということで考えると、1人の人間が2つの仕事を持って3つの収入を得る源を持つという風に生き方が多様化していきます。いかに芸術やアートと経済や暮らしを掛け合わせて、どうやって生活を豊かにしていくのか。生き方のつながりで、芸術だけで一人の人間を形成するのではなく、今後新たな掛け合わせが非常に重要になってきます。そのような形での支援が1つのチャレンジとなっていくのではないのでしょうか。</p>

会長	<p>補足はありますか？</p>
事務局	<p>次世代育成部会の辻部会長が欠席のため当日の補足をします。美術と音楽では状況が少し違っているという議論がありました。今はしがぎん経済文化センターや平和堂財団を含め、どちらかというとも音楽の若手の芸術家、石山高校の音楽科などで育てこられた方で、コンクールや表彰などで受賞され方に海外留学資金の援助等を行っておられます。資料の中で関係性がうまくできている印象を受けたという意見がありましたが、各団体間で表彰された方が次の段階の助成につながっているということです。互いにネットワークができるなかで、情報のやりとりがなされ、人が育っているところを評価していただきました。</p> <p>一方、美術の分野では、県内の芸術家がとくに大学院になると県外に出て行き、その後の補足がしきれていないことが課題としてありました。県内の成安造形大学で活躍をされている方も、市場としては京都・大阪に出て行くことが多く、県内でどのように情報を集めていくか課題があるという指摘をいただきました。</p> <p>当課の事業で、地域元気創造暮らしアート事業で補助している中で、地域のクラフト工房などをされている方が工房を開放し、来訪者を迎えるということをしています。色々な分野をつなぎながら育っていくような人材をどのようにこれから育て、地域とつないでいくのかが今後の課題と思っています。色々のご指導いただきたいと思います。</p>
会長	<p>これについては、引き続き次世代育成部会で研鑽を深めていただきたいと思います。一つ目の評価部会でも出た議論とブリッジできるのではないのでしょうか。それはアートの生産者と消費者との関係だけで二極関係のものに過ぎているのではないのでしょうか。中継プレイをするプロデュースやコーディネートする人材がもっと大事で、そこがないと実際に狙いできません。そういう意味でアートマネジメントの役割を高く評価すべきという意見があるわけです。アートマネジメントが実は舞台技術者に限定されているのではないのでしょうか。そうではなく、社会につなげていくことが必要で、社会との間でのファシリテーション、コーディネーション、プロデュースなどの多様なことができる県民人材をもっと獲得しないといけないのではないかという話が出ていました。次世代育成部会でも若手の芸術家に絞り込みすぎていると、話がニッチになり貧しくなると思います。生産者と消費者という二関係だけでなく、流通・媒介・批評・紹介などで多様な働き、医療の世界のパラメディカルのような人材をもっと作るべきだと思います。次世代育成部会でも議論を深め、地盤を軟らかくす</p>

	<p>る必要があります。大切な課題だと思います。</p> <p>■議題3 文化プログラムの推進について</p>
事務局	事務局より「文化プログラムの推進について」説明
会長	<p>事務局からの説明について、ご意見ご質問等をお願いいたします。</p> <p>東京オリンピックパラリンピックをどう迎え撃つかという、中期戦略だと思います。さらにワールドマスターズゲーム等が後につながってくるビッグイベントにいかにかうまくつないでいくか。消化するだけでなく、理念をレベルアップしていくかという戦略かと思います。</p>
委員	<p>文化やスポーツ、観光等の色々なものを組み合わせていだけなら、それを所管しているそれぞれが振興するだけで良いと思います。しかし、新しいプラットフォームを作るならば、経済的合理性の中で利益を生むという形ではないが、その仕組みを回せるだけの原資を作り上げていかなければいけないと思います。補助金や支援金があるうちはできるが、なくなるとそのプラットフォームが空中分解してしまいます。今後はそこを追求していったらどうかと思います。</p> <p>5の取り組みの方向性についてですが、1, 2, 3, 4とあるが、4の未来の育成、実際は1番に育成がくるべきではないかと思います。実際は育成があり、地域があり、共同社会があり、国際があるという形。大人が良いものを作り子どもに引き継ぐという概念ではなく、子どもをどのように育てていくかということに対して、どういう社会が必要かということを考えて、時代を追っていかないといけないと思います。このスピードアップしている時代についていけなくなります。順番を変えるのも1つの方法ではないか思います。</p>
委員	<p>取り組みの方向性で1番と4番の担い手の育成などがあるが、音楽会や演奏会は予算が必要になってきます。低価格の予算内で演奏会をホールごとにやって欲しいと思います。ホールごとにイベントを企画できるようなコーディネーターを低賃金でも雇えるように、人材を作ってもらいたいと思います。守山市では、ルシオールというイベントをしていて、安い賃金に抑えて、あれだけのものができるノウハウがあります。そこから他のホールにも伝えてほしいと思います。子どもたちが行きたくなるコンサートを各ホールで行ってほしいと思います。県内にたくさんのホールがあるので、そういった人材がいればコーディネートしてもらえらるはずなので、地</p>

<p>委員</p>	<p>域で活性化してもらいホール同士で連携してやっていけば盛り上がっていくはずなので、そこも考えていって欲しいと思います。</p> <p>5の取り組みの方向性の中の地域づくりで、食文化も文化の中に取り組みられています。そうなる文化担当課だけではできないと思います。庁内横断的なプログラムを展開していくためのプロジェクトなど具体的な案があれば教えていただきたいです。</p> <p>3-3で未来の文化の担い手について、文化プログラムの推進にあたっては、作る・見る・支えるとあります。支えると言うことが非常に難しいのではないかと思います。芸術家や音楽家の育成(アマチュアも含めて)を支える方の教室・講座がないのです。個人的に芸術大学の実習講座に通ったことがあるのですが、1つの絵画の展示するにしても、キャプションやレイアウト等を考える必要があります。個人で絵を描かれる方にも、展示の際にサポートする、支える方が必要で、そういう人材を育成するプログラムが必要だと思います。</p> <p>評価部会で出たアートマネジメントセミナーで滋賀アートマネージャーのような資格を作ることは非常にいいアイデアだと思います。具体的に支えるサポーターをどう育てていくかのプログラムをしっかりと中に組み込んでほしいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>様々な意見が出たのでピックアップしていきます。</p> <p>産業・観光は大事だが、一過性にならずに戦略化すべきというご意見がありました。これは文化振興担当課だけではできない話だと思います。芸術や文化を媒介とした地域の活性化・産業おこしとなると、別の戦略プログラムを持たなければいけないと思います。それがなければ掛け声だけで終わってしまいます。文化振興担当課だけでできないのであれば、庁内連携会議等を持つ必要があります。</p> <p>取組の方針では、担い手の育成をむしろ一番にもっていきべきというご意見でしたが、これは検討してください。この考え方は同じように、改正文化芸術基本法における言葉の並び方に1番最初に経済・産業がきて、真ん中に教育・福祉が来るのはおかしいとおっしゃる関係者もいます。むしろ教育や福祉が先にくるべきで、観光や産業は後ろだと。それは県の自治の範囲で配慮して考えていくべきです。</p> <p>食文化について言及がありました。食文化は新しい芸術文化基本法に入りました。滋賀県が持っている食べ物文化は、文化政策の対象となります。それを踏まえただうえで、この文化プログラムをどれほど強力でパワフルな中期プログラムにするか、改善の余地はあるのかということです。</p>

<p>事務局</p>	<p>コーディネーターの位置づけについてご意見がありました。各劇場に一人ずついるべきで、それを支援するためにびわ湖ホールができるのではないかということでした。評価部会ではもう一つ意見がありました。ホール側にコーディネーターは必要であるが、市民側・県民側にも必要ではないかというものです。例えば、福祉施設とか教育機関や医療機関をつなぐような県民の存在があつて、ホールともっとつながりやすくなるのではないかと。ホールの方が積極的に役に立つと言っているだけでは難しいと思います。2つの仕組みが必要だと。県民コーディネーター育成のプログラムの方が必要になるのではないかという意見がありました。</p> <p>色々な分野をつなげていくこと、お金を回していく仕組みがないと持続可能でないのではないかというご意見ですが、この文化プログラム取組方針を検討する際に、市町の方に集まってもらった時に似た話が出ました。行政の予算だけでは限界があり、地域ごとも培ってきたものを維持することに対して、民間事業者や他の団体と話をしていくような工夫をしないといけないという意見がありました。文化プログラム取組方針のなかで、民間団体と行政の連携強化という書き方をしているが、行政の発想だけでなく、意見交換の場を持つと考えています。具体的なプランがあるというところまでは行っていませんが、これについても皆様にご協力いただきたいと思っています。</p> <p>食文化についてのご意見ですが、これは文化振興課だけでやろうとすると無理があります。食文化については、商工観光関係や農政水産部の食のブランド推進課などで取り組みを行っています。これらの部署と連携の強化が必要があると考えています。文化プログラム取組方針の検討の際に、庁内全体が入った会議で2回ほど議論を行いました。各部局から活発に意見をいただき、とくに今まで当課のつながりのなかった農業団体等とも、もっと話をしていくべきということになりました。それを受けて、第1回の滋賀文化プログラム推進会議では、農政関係の部局に出させていただくとともに、農業団体にも声をかけました。今後は当課だけでなく、関係部局にも会議体や意見交換の場に出させていただきたいと思っています。政策的な相乗効果も発揮できよう工夫をし、働きかけを強めていきたいと考えています。</p> <p>ご意見をいただいた、文化を支える人材の育成についてですが、例えば守山市のルシオールは、単に守山市役所が頑張っているだけではありません。市民の方にボランティアや立命館大学等の協力、市の文化事業団の人材などが間に入ることにより、特定の所に負担が偏らずに運営ができていくという意見がありました。各ホールも厳しい予算の中で、負担をし合い</p>
------------	--

	<p>ながら、うまくコーディネートしていく仕組みを、守山市のルシオールを参考にして勉強していく必要があります。現在、各市町で同じことができているという訳ではないので、県から情報を共有することが課題だと思います。</p> <p>未来の文化の担い手がむしろ1丁目1番地であるというご指摘をいただきました。それはおっしゃるとおりで、我々もその意識でやっていきたいと考えています。ただ文書の順番については、とくに東京大会とのつながりや分かり易さを考えて、この順番にしています。考え方については、東京大会やその後の様々なイベントを見据えながら”担い手の育成”は最重点という意気込みで取り組みます。</p> <p>今の議論で、方向性が見えたのではないかと思います。私自身、コーディネーターについては今後の検討課題だと評価部会で強く主張しました。芸術文化基本法改正の趣旨と劇場音楽堂活性化法の制定の趣旨から言うと、劇場音楽堂等はもはや準社会教育施設と見なすべきだと思います。教育機関との連携は本法に入っているが、大臣告示では福祉機関、医療機関との連携、および地域コミュニティの活性化のために存在しているとあります。そうすると図書館には司書、博物館には学芸員、公民館には社会教育主事、公民館主事が必置の基準です。劇場音楽堂が準社会教育機関であるならば、準専門家的な人材を配置しなければいけないとなるはずだが、議論はまとまりませんでした。そのためびわ湖ホール等が独自に研修を行っているのです。そしてそれを音響・照明の職員を要請することを勘違いしているということです。そうではなく、社会協力や社会調査能力をもった、リサーチ能力をもった社会教育的職員がそこにはいないといけないということです。芸術監督を置かなければいけないという解釈ではないのです。教育機関なので、そこは勘違いしないでもらいたいと思います。そういう意味でびわ湖ホールは県内の公共ホールのお世話役として、レベルの高いノウハウを配給できる機関になってもらいたいということです。多くのホールは公立の演芸場になってしまっているところもあるので、本来の社会機関としての役割を回復してほしいと思います。</p> <p>■議題4 新生美術館の整備の現況について</p>
会長	
事務局	事務局より「新生美術館の整備の現況について」説明
会長	ただいまの事務局からの説明について、ご意見ご質問をお願いします。

委員	<p>新生美術館について私自身が申し上げたのは、目的を守るためにどういう努力ができるかということが大切だということです。しかし時代の流れと価格は変動します。その出発点の設定価格と入札業者の提示額の差は、単なる金額の差なのか、基礎となる考え方の差なのかが見極めるのは難しいと思います。設定価格の組み立てができる価格をきっちり提示しているのが、民間としては問われることです。そういった足下の見直しも必要だと思います。民間としてよくやることとしては、3つのことをやろうとしてできなかったら2つにし、残りの1つをどうするかということで、分割することも民間の力ではできます。そのやり方が実際に可能なのかどうかとも検討してみてはどうでしょうか。芸術がわからないので経済目線になりますが。</p>
委員	<p>新生美術館整備推進専門家会議に出席しました。私の発言ではないが、10 ページの③飲食機能の1つ目の意見が端折られて書かれているのではないのでしょうか。もう少し意味のある発言だったと記憶しているので、他の意見も端折られていないかと思いました。そのため意見を踏まえた今後の対応案とあるが、少し不安になりました。</p>
事務局	<p>一方的な意見だけを載せるのはどうかと思いましたので、飲食機能については、喫茶が必要だと言う意見の方が多かった一方で、図書館との連携も必要との意見もあったので、それを反映させました。</p>
委員	<p>「レストランは大変、100 円コーヒーを飲むことが出来ればいい。」ではなく、もう少し深みのある意見だったと記憶しています。いくつかそういう点があったので大丈夫なのかと思いました。</p> <p>開館の時期がずれるのであれば、開くまでの時間をいかに有効に使い、新生美術館を県外の方にも知ってもらい、親しんでもらう機会に使うことに考え方を持ってくるべきと思うと言いました。休館していることを逆手にとるべきだと思います。</p>
委員	<p>その意見に賛成です。ピンチはチャンスだと思います。せっかく開館日が伸びたのであれば、その期間を戦略的 PR 期間にすべきで、「ここ滋賀」は東京のすごく良いところにあるのだから PR ブースを設けて、展示を始めるべきだと思います。アール・ブリュットはインパクトがあるので、東京で話題になると思います。あと2年程、展示を順番に出していくと良いと思います。「もうすぐ開館」「もうすぐ開館」と。1ヶ月ごとに展示内容を変えてもいいと思います。それごとにイベントを組んでも良いと思いま</p>

委員	<p>す。絶好の PR 期間だと思います。東京に展示の場所をもって、新生美術館が全国的に特にアール・ブリュットが注目されるチャンスだと思います。</p> <p>守山市図書館も開館が4ヶ月遅れていて、入札で落ちないことを身にしみて感じています。遅れていることをチャンスにしたいと思い、イベントを企画し色々なところに出向いています。ピンチはチャンスなのだと思います。守山市では建物が建ってからも、建設委員会を残しました。相談したい事項がある時には、委員を集めて意見をいただく機会が持てます。それは守山が初めてだったようで、良いことだと評価をいただいています。今、美術館では移動展示なども行っているの、守山市の新しい図書館ができれば、展示スペースでぜひやっていただきたいと思います。図書館は教育機関でもあり、文化施設でもあると思います。そのため、文化プログラムには図書館も入れて欲しいと思います。図書館には色々な情報が集まります。文化的な情報、展示会、コンサート、講演会などがたくさん集まります。紙媒体の情報は皆さんが身近に接しているものです。文化の育成、心を育むという部分は、図書館で本を読むことなどで育ってくるものだと思います。基盤的なことで、県立図書館は日常的に使う、美術館は非日常だと思うが、もっと連携し企画をして、良い美術館ができるのが楽しみにしています。</p>
会長	<p>ここで出た意見は、その他有識者からいただいている意見。今後の参考にして欲しいと思います。最後のご意見は、県立図書館と美術館は、敷地が連動しているので別々で考えるのではなく、一つにして考えるべきということでした。</p>
委員	<p>まだ図書館に比べると、文化施設としての美術館という認識がまだまだです。私は本が好きなので、図書館と美術館の2つがつながる共通の機能を考えてみては良いのではないのでしょうか。現在は近くにあるが、つながっていないと思います。統計をとったわけではないが、行く人の種類が違って、どちらにも行ける施設になれば良いと思います。機能以前の問題かもしれませんが、2つの機能をつなぐ発想がもっとあってもいいのではないのでしょうか。</p>
会長	<p>今、出た意見は参考にしてほしいと思います。それでは議題5について説明をお願いします。</p>

■議題5 平成30年度の主な取組について	
事務局	事務局から「平成30年度の主な取組について」説明
会長	ただいまの事務局からの説明について、ご意見ご質問をお願いします。
委員	子ども達を県のイベントに取り込めるような事はできないでしょうか。オリンピックで子ども達がマスコットと登場するようなことなど。与えられるものではなく参加できるようなものになると良いと思います。
委員	滋賀の音楽の事業は、長くやってこられていてレベルの向上や親しみをもつことに役立っているが、できればこれのアート版を考えて欲しいと思います。小さい頃から、美術の授業の時間は絵を描くだけになっていて、鑑賞をしていません。将来を担うアートマネジメント、優秀なアートマネージャーはまず見ることから始めることが大事だと思います。絵の見方のコツを教えてあげて欲しいと思います。分からないまま見ると、何をどう見たら良いかがわからない。美術館が閉まっている間はチャンスだとそのチャンスだと思います。
委員	文化は経済や社会情勢などから非常に影響を受けるものです。現在、社会的に抱えている少子高齢化や人口減少を文化はどのように捉えていくのか。日本の文化、滋賀の文化プログラムを形成するにあたり、京都や奈良の文化の違いがあるのか、独自性があるのかなどをリノベーションすることが必要ではないかと思います。
委員	主な取り組みの中で、重点施策2と重点施策5が盛り込まれていない。5の文化活動をさせる人材育成の支援が上がっていないではという懸念があります。
委員	重点施策7の事業、担当課としては障害福祉課だと思います。文化振興課だけでなく、他課との連携がこれからうまくいくのではないかと期待しています。文化プログラム取組方針でも、相手の課、例えば障害者福祉課で言うと障害者基本法があり、それに基づいた取組方針が決まっています。その中にも文化芸術が次の改正で多く盛り込まれている状況にあります。連携先の課も文化芸術を求めているので、言葉だけでなく具体的な連携で好循環が生まれるのではないかと期待しています。

委員	<p>びわ湖クラシック音楽祭が今年からあるが、かがり火オペラというびわ湖を使ったオペラをされるのがすごく楽しみです。オーストリアのブレゲンツ音楽祭でボーデン湖の上に舞台を設置してオペラをします。20年、30年、40年と毎年行っているオペラ。かがり火オペラが次の年へと広がりびわ湖のメインになって日本各地や世界から人が集まるようになれば良いと思います。</p>
三委員	<p>守山市の図書館は11月にオープンする。図書館部分も充実するが、120人程入れるホールやスタジオや活動室のような部屋を作ります。そこで文化活動が盛んに行われるようにコーディネーターが必要だと思います。図書館職員は頑張らなければいけない。色々な機関をつないだり、市民のボランティアの方達とも連携していきたいと考えています。</p> <p>今度、図書館では今森光彦さんという大津市にお住まいの写真家と工藤直子さんという童話作家で詩人の方のトークショーを市民ホールで計画しています。この二人の新しい絵本の出版を記念して、出版社の方のご協力により開催します。守山市図書館の施設をプロの方だけでなくプロを目指す方も使うことができるようにしたいと思います。</p>
委員	<p>始まったばかりと言うこともあるが、文化・芸術・障害者などつながりが十分に実現していないと思います。大事なのでやって欲しいと思います。そのためにアクセシビリティの促進事業は大事だと思います。どうしたら高められるのか。</p> <p>コーディネーターの機能も大事。京都芸術センターはコーディネーターを置いている。3年に1度、7～8名を採用しています。</p> <p>例えば、図書館法は昭和25年か26年にできたと思います。それに比べるとコーディネーターという認識は図書館司書に比べると低いです。制度的にも図書館職員は職員としての認識があるが、コーディネーターというはまだ曖昧です。</p>
委員	<p>目の前の事をどうするかから始めるべきだと思います。とくに2020年のオリンピックパラリンピックに向けて文化プログラムを新しい事をする実感がないので、まずは小・中・高の文化祭、大学の大学祭としっかり連携をして、学生たちに滋賀の文化について発表やイベントを企画してもらおう。そういったところの連携から始めると、そこをきっかけに育成、コーディネーターへの道も拓けてくると思います。知らないことは存在しないことと同じだと言います。まずは文化を知る機会を子ども達に与えることが重要だと思います。</p>

<p>会長</p>	<p>重点施策5が抜けているのは少し気になります。これは、やらないという事ではないはずで、トピックスとして出すほどの事ではないからなのではないかと思います。あきらかに重点項目として存在している。サポート人材、アートマネージャーなど育成支援が欠落しては困ります。</p> <p>横浜や堺などではアーティストと学校をつなぐ事業を始めています。その時に必ず必要なのは、アートコーディネーター。学校側に希望を聞くことも必要、アーティストとの調整が必要です。コミュニケーション能力が欠落した人もいるし、演劇関係の方は言語能力が乏しい傾向があるので、トレーニングシステムが必要だと思います。すべての館に必要なだし、県民側にも必要です。各市の特色を理解しているアートコーディネーターが欲しい。</p> <p>障害者を重点項目においているので、そこから派生させて低所得者はどうなのか、低所得者の子ども達はアートに触れているのか、在日外国人等、滋賀県ならではのセンスの発揮の仕方があるのではないか。その部分の裾野を広げてもらえたらと思います。</p> <p>マネージャーという言葉を使用しているが、アートマネージャー等にしたい。コーディネーターも含めて。そうしたらもっと広がるのではないか。アートマネージャーの定義は舞台・技術の専門家、製作・技術、音響・映像になってしまうと、それらは地域から求められていない。地域社会が持っているポテンシャルな課題とアーティストをうまくつなぐ仕事、そこを工夫して欲しい。びわ湖ホールが行っている仕事もいいことだが、びわ湖ホールでは手に余るところはコーディネーター開発の仕事。基本方針に「〇〇が目指す将来の姿に”多様な主体による協働の元”」と書かれている。単なる課題共有ではない。お互いに知恵と力を貸し合いながら県民が行政に参加していく。行政は県民社会に潜り込む。溶け込んでいくような現場をいくつも作るということ。お互い溶け合うことが協働である。県の美術館をさせる県民集団を作る。県の美術館は県内の各地に進出していく。県内のいたるところで県の美術館をのぞかせる。地域にびわ湖ホールが顔をのぞかせるというのが協働だと思います。そういうイメージで重点項目に取り組んで欲しいと考えます。</p> <p>本日は、ご協力ありがとうございました。</p> <p>以上をもって文化審議会を終わらせていただきます。ありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>■閉会あいさつ</p>